

No. 12 3月 3日(火)
 平成26年度 児童数217名
北小だより 熊谷市立江南北小学校
 校長 丹羽大森



学校教育目標
 やさしく かしく たくましく

3月の生活目標
 「江南北子ども達の約束」を守った生活としよう

この世に必要な言葉！

全校朝会講話より

2月16日の授業参観で、5年生の教室では「命の授業」が行われていました。懸命に病気と闘った内田先生の教え子が、残念ながら中学2年生の夏に亡くなられというお話に、たくさんの5年生が涙を流し、自分の命も人の命も大切にしなければならないことを学ぶことができました。

12月には6年生が、ピンクリボンの会の皆さんをお招きして、ガンという病気を体験したり、ガンで御家族を亡くされたりした方のお話をうかがい、「生きていることに感謝し、すべての人の命を大切に」することを学びました。中でも、ガンを患いながらも、支えてくれている周りの人たちを思いやりながら懸命に生き、わずか7歳でこの世を去ってしまった大崎利恵さんのお話は、私も涙なしに聞くことはできませんでした。

ガンという病気は、早い時期に見つけないと、今でも治すことが難しい病気の一つで、ガンにかかると死んでしまうと思われがちです。私もそう思っていました。

皆さんにはよい子、そしてよい大人になってほしいので、今だから話せる校長先生の秘密を話します。

今から9年前、校長先生は大腸というところにガンができました。気がついたのが遅かったので、ゴルフボールくらいの大きさになっていました。「これで死んでしまうのか」と、生まれて初めて「自分が死ぬ」ということの怖さや寂しさや悔しさを感じました。涙なんか出ませんでした。



そのとき、先生の家族は、奥さんと、幼稚園と小学校に通う二人の子供と両親でした。死んでしまうと大切な家族とも会えないのかと思うと、本気で「時間よ止まれ」と思いました。娘がランドセルを背負って小学校に通う姿も見られないのかなど、悪いことばかり考えてしまいました。

学校を休んで入院して、手術をしました。何日かしてお医者さんから、「丹羽さんは運がよかったよ。悪いガンじゃなかったから心配なくていいよ。」と言われました。家族も喜んでくれました。その時お世話になっていた校長先生の「ホッ」とした顔も忘れません。

その時、思いました。私は特別なことができる人ではないけれども、私のことを大切に思ってくれる人がたくさんいたこと、そして、自分はもちろん、自分以外の人ももっと大切にしなければなりません。

毎日、皆さんと元気なあいさつを交わし、一所懸命に縄跳びをしている姿を見ていると、今日も生きていてよかったとつくづく思います。

この世に、生きてくても生きられない人はたくさんいますが、死んでいい人は一人もいません。「死ね」とか「殺す」という言葉はこの学校はもちろん、この世の中に必要のない言葉です。

3月行事予定

日	曜	朝の活動	児童行事等
1	日		
2	月	朝読書	登校指導・一斉下校 通学班編成 職員会議
3	火	全校朝会	委員会活動
4	水	めきめき	卒業を祝う会
5	木	めきめき	
6	金	なわとび	6年生社会科見学
7	土		P.T.A代表委員会
8	日		
9	月	朝読書	
10	火	感謝の会	交通安全感謝の会 6年生会食
11	水	めきめき	6年生会食
12	木	めきめき	6年生会食
13	金	なわとび	給食なし 短縮3時間
14	土		中学校卒業式
15	日		
16	月	朝読書	6年生会食 成績交換日
17	火		開校記念日
18	水	めきめき	非行防止教室 6年生会食
19	木	めきめき	6年生会食 食育の日
20	金	なわとび	短縮4時間 給食後下校
21	土		春分の日
22	日		
23	月	朝読書	6年生修了式 給食最終日 木曜日課4時間 5年生卒業式準備
24	火	短学活	卒業証書授与式 1・2年生臨時休業日
25	水	めきめき	
26	木		修了式
27	金		学年末休業日
28	土		
29	日		
30	月		
31	火		

「開校記念日」(3月17日・休業日)
 昭和45年3月17日、北校舎の竣工記念式典が
 挙行されたこの日を、開校記念日と制定した。
 「春分の日」(3月21日・国民の祝日)
 自然をたたえ、生物をいつくしむ。彼岸の中日。

大人が手本となって

熊谷の子どもたちは、これができます！

- | | |
|--|---|
| 「4つの実践」(アクセル)
○朝ごはんをしっかり食べる。
○呼ばれたら「はい」と元気に返事をする。
○「ありがとう」「ごめんなさい」と言う。
○友だちをたくさんつくる。 | 「3減運動」(ブレーキ)
・テレビの時間を減らします。
・ゲームの時間を減らします。
・携帯電話やパソコンに触れる時間を減らします。 |
|--|---|

保護者の皆様から寄せられた御意見です

大変残念なことです。友だちに対する「死ね」や「殺すぞ」などの暴言が問題となり、3年生以上の児童が集まり、臨時の集会を開きました。

3月の校長講話も、この問題が決して軽いものではないということを考えてもらうためのものです。

たくさんのお家庭が、親子で話し合ってくださいました。連絡帳に書いていただいた、保護者の皆様の御意見をいくつか紹介させていただきます。

3年生保護者

「いい言葉、ありがとう・ごめんなさいがすぐ言えること。いい言葉をたくさん使っていれば、嫌なことが減ると思うよ。」
 「お友だちが傷つくようなことは言わないでください。自分が悪いと思わなくても、お友だちが『嫌だ』と思ったらそれは悪いことなのです。」



4年生保護者

「兄弟げんかの時にも、これらの言葉が出ますが、『言っではいけない言葉だよ、自分が言われて嫌な言葉は人にも言っちゃだめだよ』と常々言ってます。」
 「その言った子供は寂しかったのかも知れないので、そんな言葉はだめだよと言ってやって、一緒にみんなと仲よく遊ぼうよと声をかけるといいよ。」

5年生保護者

「子供たちの中では軽く捉えられており、感じなくなっているのだと思います。私たち大人が作り出した社会も原因の一つだと思います。言葉の重みについて、子供たちと考えていきたいと思っています。」
 「言い争いになると感情的になるので、一呼吸置いて考えるといいと思います。相手の人格を否定する言葉は絶対に口にしないでください。」

6年生保護者

「怖い言葉です。ふざけても言っではいけない言葉です。」
 「叩かれたときは体が痛いように、言葉の暴力は心が痛いことを話し合いました。言われて嫌なことは自分も言わないこと。」
 他にもたくさんの御意見をいただきました。保護者の皆様が真剣に受け止めていただき、ありがとうございました。

資源回収への御協力、大変ありがとうございました

20トンを超える(21,920kg)資源を回収することができました。
 回収品の買い取り金額は、200,030円、リサイクル奨励金の87,680円と合わせると287,710円になりました。
 子供たちのために有効に活用します。